

# 江戸川乱歩賞受賞者の 方々を迎えて

秀島 希望

二〇二二年十一月七日、江戸川乱歩賞過去三年の受賞者の方々——佐野宏実氏（二〇二〇年度・第六十六回）、桃ノ雑派氏（二二年度・第六十七回）、荒木あかね氏（二二年度・第六十九回）が、旧江戸川乱歩邸を訪問された。当日は、乱歩の御令孫平井憲太郎氏にも足を運んでいただき、乱歩邸内をご案内いただくとともに、乱歩邸にまつわる数々のエピソードを語ってくださいました。

立教大学に隣接するこの住宅に乱歩が移り住んだのは、一九三四年のことである。ほとんど当時の内装が再現されている洋室の応接間には、絨毯やデスクなど、乱歩のこだわりの品々が並ぶ。現在、その部屋の壁には乱歩の肖像画が飾られており、乱歩賞受賞者の方々はその肖像画に向き合うようにして重厚なソファに腰を掛け、平井氏のお話に耳を傾けた。

応接間は、生活空間というよりも主

に来客時に利用された部屋であり、大下宇陀児など名だたる推理小説家たちが訪れた場所だという。来客のたびに部屋を中心に置かれた大型の灰皿は煙草で溢れたらしく、壁や天井などの黄ばみにその名残がみられるようだ。過去の作家たちの面影を探すかのように、受賞者の方々が部屋を見廻す様子に、印象深い。また、乱歩邸には江戸川乱歩賞受賞者の方々をはじめ、乱歩邸を訪れた数々の著名人のサインが保存されている。今回、新たに三名の方々のサインを応接間において頂戴することが出来たのは、乱歩邸にとって喜ばしいことである。

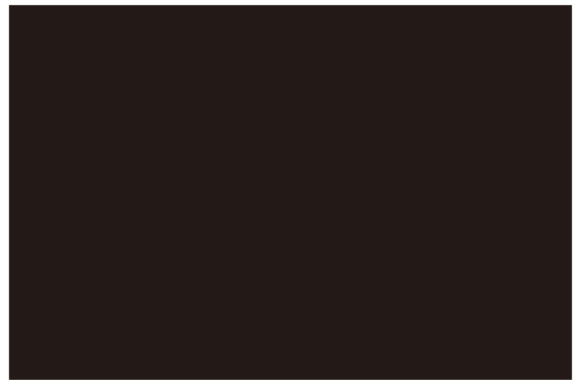
母屋を出て庭の方へ行くと、独特な雰囲気を持つ土蔵がみえる。豊島区指定有形文化財にも指定されている土蔵には、翻訳書を含む和書や洋書、雑誌等、膨大な数に呼ぶ乱歩蔵書が特注の棚一杯に保存されている。一階には、黒岩涙香やエドガー・アラン・ポー、

コナン・ドイルなど、乱歩が執筆時に参照したという国内外の推理小説が並ぶ。二階の正面には、江戸時代の版本や写本などが保存されており、乱歩の近世資料収集家としての一面が見られる。二階側面には、乱歩が保存用として保管した自著箱が置かれており、自著の多さに受賞者の方々も驚きを隠せない様子だった。自著箱をはじめ、複数の蔵書背面には乱歩の手書きで書名及び筆者名が記されており、乱歩の整理魔としての顔が見られる。

手書きの文字や蔵書の収集傾向等が垣間見られる土蔵は、応接間と同様に乱歩を身近に感じられる空間である。どこを切り取っても庄巻の光景である土蔵において、受賞者の方々は息を呑み、熱心に蔵書を眺め、乱歩が生きた時代に思いを馳せているようだった。

応接間、土蔵、いずれにおいても受賞者の方々の静かな興奮が感じられるひと時となった。

（本学大学院博士後期課程）



左から桃ノ雑派氏、荒木あかね氏、佐野宏実氏